

舟運活性化に向けた取組総括

(平成28年度から令和4年度まで7年間の取組)

(概要版)

令和5年3月 東京都

舟運活性化に向けた取組総括 1. これまでの取組と成果

【経緯】・「東京都長期ビジョン(H26.12)」 「総合的な交通政策(H27.7)」に舟運・水辺空間の活性化を位置付け
 ・「交通戦略推進会議」に水辺空間活用WGを設置(H27.8)し、関係区と連携した取組を展開

新規航路の開拓	認知度の向上	魅力の向上	利便性の向上
<p>○観光等の航路開拓調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度：3 航路 ・2017年度：5 航路  <p>2017年度の航路 凡例 東京湾循環航路 隅田川縦断航路 京浜運河縦断航路 日本橋運送航路 お台場運送航路</p> <p>→3 航路で民間運航開始</p> <p>○舟旅通勤の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度 日本橋-朝潮運河 ・2022年度 第2弾実施  <p>→通勤等の利用ニーズを確認 事業者を支援して航路の実装に向け取り組む</p>	<p>○HPの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索・予約のポータルサイト設置 ・キャッシュレス決済で乗船券販売  <p>→情報のインテグレーションのツールを構築</p> <p>○乗換案内により舟運情報を発信</p>  <p>→舟運情報をより身近に</p> <p>○情報誌でのPR</p>  <p>→観光の側面から舟運をPR</p>	<p>○異なる業種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハシダンシクルーズ ・シアトリカルクルーズなど  <p>→裾野の拡大に寄与、新たな客層の発掘</p> <p>○水辺の賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントに合わせた企画便  <p>(2019年度 Hi-NODE便)</p>  <p>(2022年度 有明アリーナ便) →舟運・水辺の魅力を発信</p>	<p>○案内サイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16か所設置  <p>→アクセス時の分かりやすさを改善</p> <p>○船着場のDX</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船着場予約システム、スマートロックを港湾の船着場で試験導入  <p>→DX化のモデルを構築</p> <p>○船着場の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川7か所、港湾6箇所 <p>→利用可能な船着場を拡大</p>

○合計1万人以上が乗船し、需要の把握や一定の認知度向上が図られ、舟運の盛り上がりにも寄与
 ○船着場の開放、ポータルサイト、案内サイン整備等、舟運活性化を推進するインフラ整備が進展

舟運活性化に向けた取組総括 2. 課題及び今後の取組の方向性

これまでの7年間の取組及び近年の都政や社会情勢の変化等を踏まえて、今後の取組の方向性を整理

■ 7年間の取組を踏まえた課題

新規航路の開拓

- ・ バリアフリー化されている船は少ない、
- ・ 屋根なし船は天候・季節の影響を受けやすい
- ・ 運航の初期段階から事業採算性を確保することは難しい
- ・ 舟運事業者は中小企業が多く、投資体力は限られる

認知度の向上

- ・ 舟運の運航情報は各社がそれぞれに掲載し分かりづらい
- ・ 地図アプリに船着場の位置表示がない等、情報発信が不足

魅力の向上

- ・ コロナ禍で舟運の利用者が激減
- ・ 水辺のまちづくり等と連携した賑わい創出・活性化が必要

利便性の向上

- ・ アクセスが不便な船着場の利用が低調
- ・ 船着場利用予約はTEL、FAXが主流。管理者毎に申請が必要

■ 近年の都政の展開等における課題

「東京ベイesGプロジェクト」

- ・ 都心と臨海部における交通ネットワークの強化

「TOKYO強靱化プロジェクト」

- ・ 快適で多様な移動手段を早期に整備（ベイエリア等）
- ・ ゆとりと潤いあふれる水辺空間の整備、活用
- ・ 災害時の避難・物流の確保

「スマート東京」「シン・トセイ」

- ・ デジタルツールで業務のアップグレード、オンライン化
- ・ デジタルツインの活用や都市機能のデジタル化による生産性向上

「ゼロエミッション東京」

- ・ 2030年までに温室効果ガス排出量を2000年と比較し50%削減
- ・ 地球全体で2050年までにゼロを目指す

■ 取組の方向性

1. 新規航路の開拓

NEW

① 交通手段としての航路の充実

- ・ 船を活用し、早期に都心部・臨海部の交通手段を充実
- ・ 着席や業務しながらなどの利用者ニーズに対応

2. 利用者の利便性向上

① 船着場のアクセス向上

② 案内サインの整備

3. 舟運のDX化の推進

① 船着場予約システムの導入・オンデマンド化への取組を促進

② 運航情報・乗船券予約の一元化、MaaS等の促進

4. 認知度・魅力の向上

① 舟運を盛り上げ、魅力度の向上を図る企画便の運航等を実施

< 舟運活性化に関わる施策 >

水辺のまちづくり・にぎわいづくり

- 水辺の魅力を活かした東京の顔づくりを推進
- 観光産業の復活と持続的な成長

防災性向上への寄与

- 防災船着場の機能拡充、整備促進

環境負荷の軽減

- 保有船を次世代エネルギー船へ転換
- 環境配慮型船舶の導入に関して調査

[交通手段としての舟運の定着を支える環境整備]

舟運活性化に向けた取組総括 3. 今後の舟運の施策展開

1. 新規航路開拓

1. ①交通手段としての船の活用

- 通勤等、日常における交通手段として航路の実装に向けた検討・支援を実施
 - ・バリアフリー化等の船舶整備を支援
 - ・事業の立ち上げ期の運航を支援

⇒都心部と臨海部との定期で運航する新しい航路を早期に実装

- 航路の定着、持続可能な運航への方策
 - ・多様な主体の関与による運航スキーム
 - ・収入増・コスト減の方策の検討



2. ①船着場のアクセス性の向上

- 他の交通機関との乗換など、各船着場のアクセス性向上に向けて調査を実施



- ・モデルケースの実装化に向け調整し、地元区主体の取組を促進

2. ②案内サインの整備

- 未整備の船着場周辺で引き続き整備促進



2. 利用者の利便性向上

3. 舟運のDXの推進

3. ①船着場予約システムの拡大

- システム化



- オンデマンド化



デジタルツールを活用して、手続きのオンライン化、舟運事業者の生産性向上を促進

3. ②MaaS等の情報連携・魅力発信

- 運航情報の一元化、データの活用を促進し、舟運利用の需要の創出、利用の定着化につなげていく



4. ①認知度・魅力の向上

- 舟運を盛り上げる企画
- 舟運の魅力を情報発信



舟運活性化に関わる施策

